

教育の質保証に向けた取組み ～日本福祉大学のIR推進から～

2012年5月21日（月）
中央教育審議会 大学教育部会

日本福祉大学 大学事務局長 齋藤真左樹
IR推進室長 大崎 博史

1

報告内容

1. 日本福祉大学のIR機能
2. IR推進室での活動内容
3. GPでの取組み
4. IR機能の組織化の特徴とねらい
5. IR推進の課題

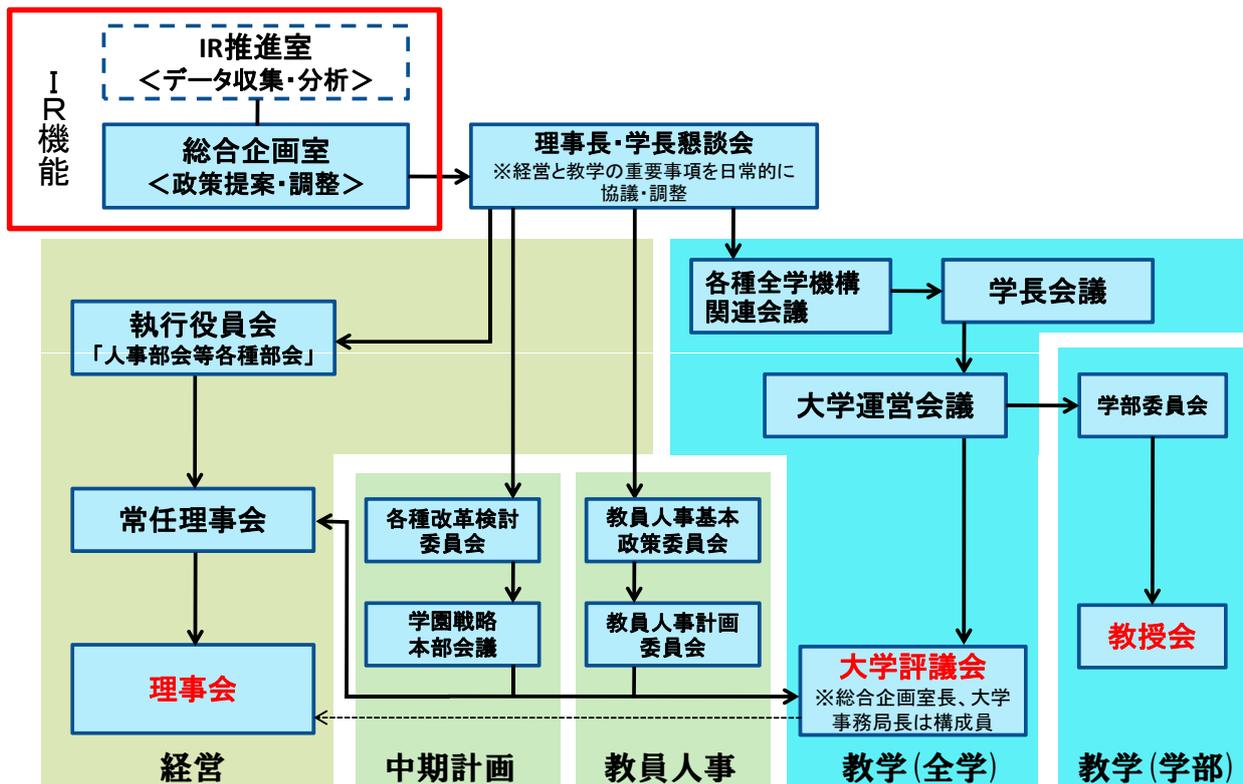
2

日本福祉大学のIR機能

	位置づけ	構成員
総合企画室 (教職協働の委員会) (2009年度から再開)	教育、研究、経営の諸領域における企画立案と意思決定に必要な諸データの多元的収集、多面的加工と総合分析、そして一元的統合管理を活動の主軸とし、学内諸機関・部局との協働・連携を通じて全学園における『政策形成・統合』を推進するため、「総合企画室」の下に「IR推進室」が設置された。	構成員は計7名 室長:常務理事(企画) 室員:6名(教員3名、職員3名) ※教育・学生・研究関係の学長補佐(機構長)がオブザーバー参加 ※室長及び室員は理事長・学長会議の協議を踏まえて学長が指名し、大学評議会及び常任理事会の承認を経て学長が任命。
IR推進室 (2009年度設置)		構成員は計3名(専属の専任は1名) 室長:IR推進室長兼情報政策課長 室員:事務職1名、専任研究員1名

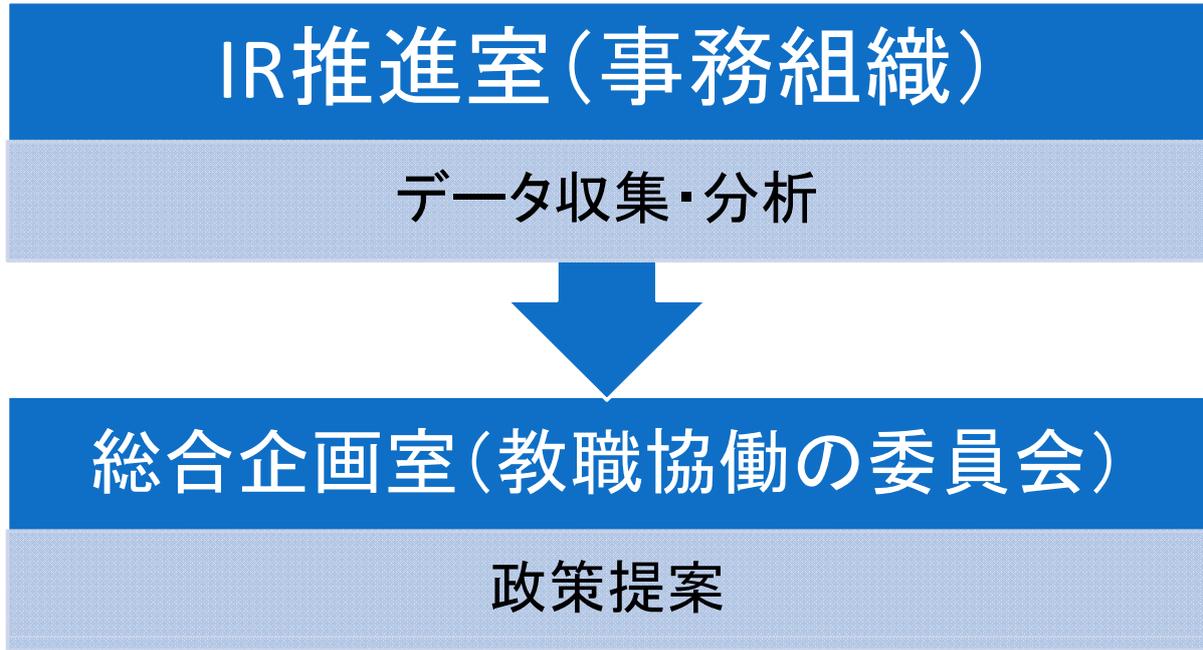
3

大学(学園)の意思決定の流れ

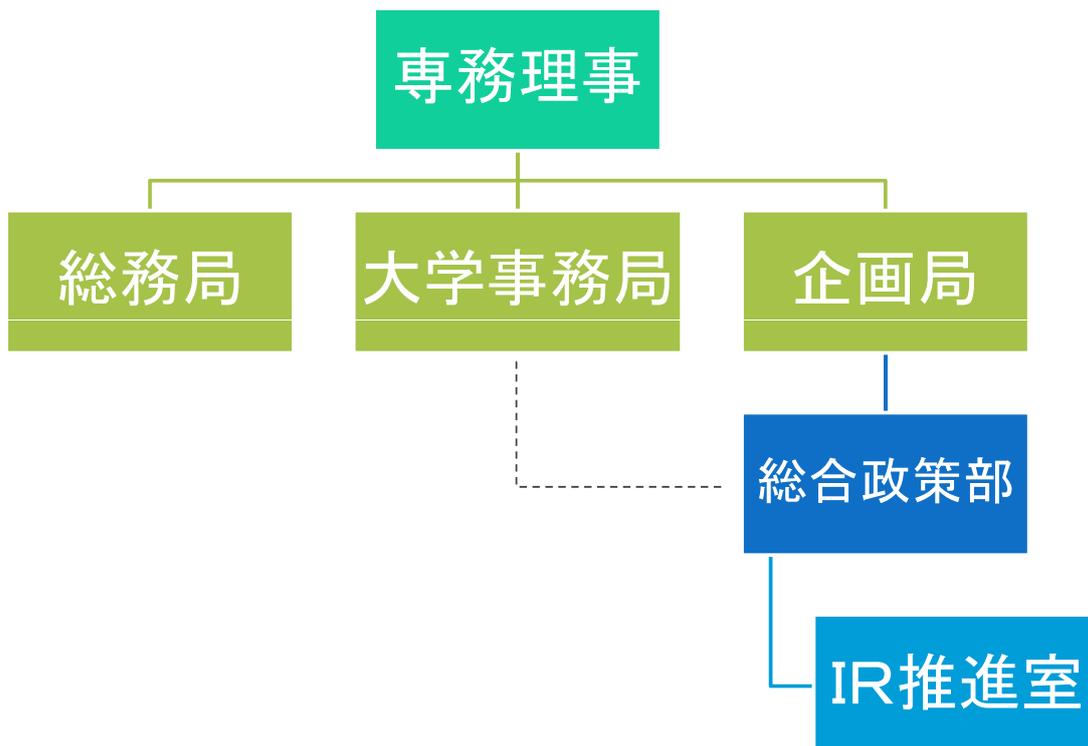


4

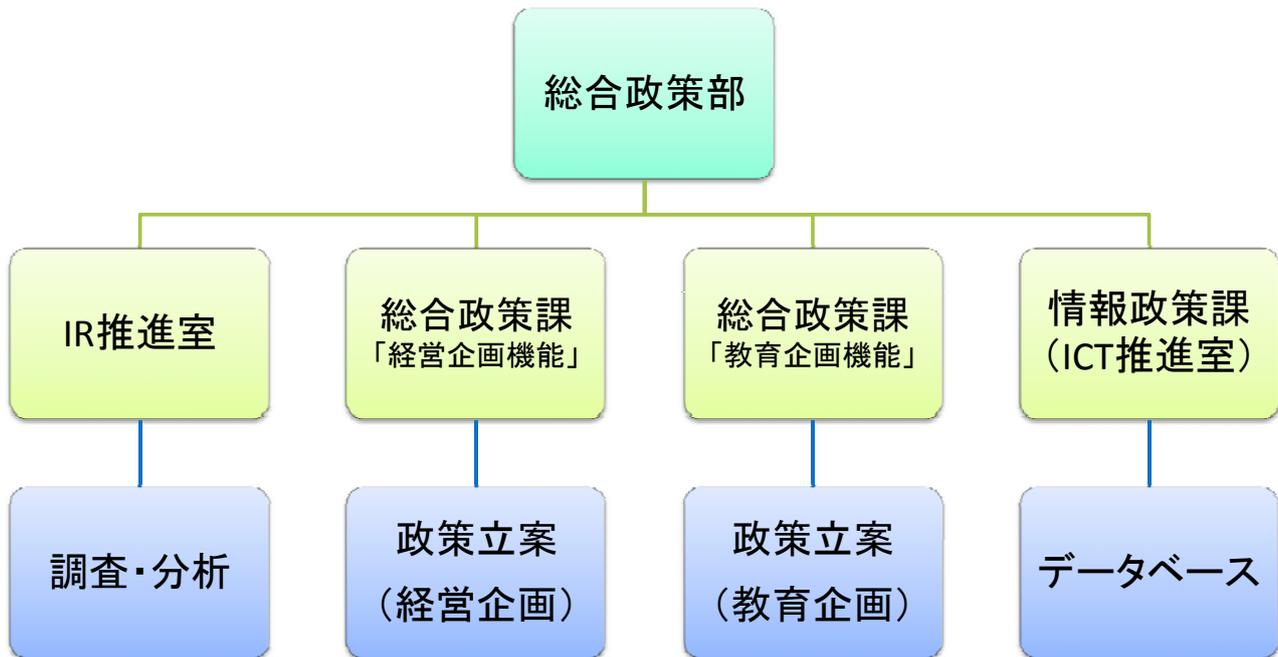
「総合企画室」と「IR推進室」の役割



事務局内の位置付け



総合政策部のIR要素



7

IR推進室の業務分類(項目は例示)

1 定例報告

- 外部調査対応
- 自己点検・評価報告書発行
- FACT BOOK発行
- 大学認証評価対応

2 定例調査

- 新入生アンケート
- 在校生アンケート

3 定例分析

- 入試形態別学生状況分析
- 社会福祉士合格者分析
- 公務員試験合格者分析

4 非定例分析

- 上層部からの分析依頼
- 現場からの分析依頼

8

IR推進室での分析実績(例示)

分析テーマ	分析ポイント
公務員試験における合格・不合格学生の特性分析	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時公務員就職希望者の受験率 ・公務員試験対策の効果測定
社会福祉士国家試験合格・不合格学生の特性分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ別合格率の分布 ・入試形態別の合格率 ・国家試験対策利用者別の合格率
本学経済・福祉経営学部の志願者・入学者特性分析	<ul style="list-style-type: none"> ・出身校別志願者と入学者に関する分析
本学卒業生に対する社会人教育プログラムニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ・職業分野別学習ニーズ調査・分析 ・職種別学習ニーズ調査・分析
附属高校出身学生の学習状況等における現状分析	<ul style="list-style-type: none"> ・修得単位数、GPA、社会福祉士国家試験結果、離学状況等の現状把握
学生のSPI得点と成績の関係分析	<ul style="list-style-type: none"> ・高校ランク、入試形態別のSPI得点とGPAの関係分析 ・就職志望業種とSPI得点の関係分析

9

社会福祉士国家試験合格・不合格学生の特性に関する分析報告書(目次)

1 社会福祉士国家試験合格者の状況 (合格者数・合格率)

- (1) 本学の社会福祉士合格者数と合格率
- (2) 社会福祉学部(現役)の学科別合格者数と合格率
- (3) 全国大学別の合格率と本学の位置(現役のみ)

2 入学時学力・在学中成績別の合格率比較

- (1) 入学時の学力別の合格率
- (2) 在学中の学習状況(修得単位数とGPA)と合格率の関係

3 支援プログラム参加と合格率

(対策講座・直前面接・模擬試験)

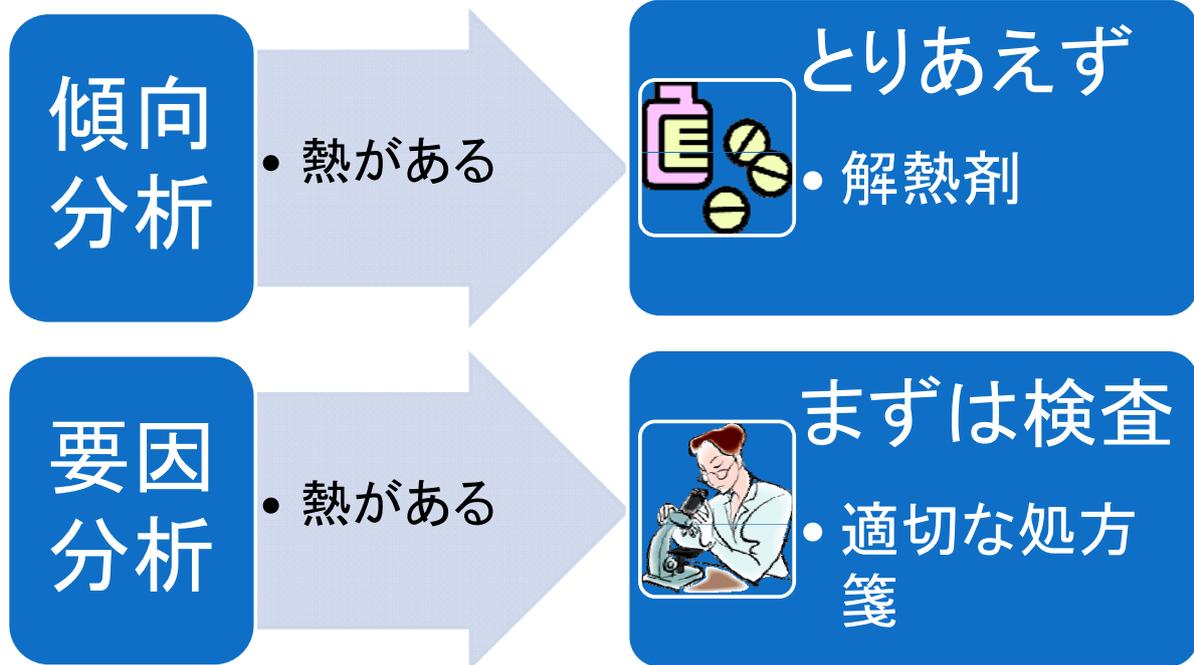
- (1) 対策講座・直前面接・模擬試験の参加者と合格者
- (2) 模擬試験の得点と国家試験合格の関係
- (3) 直前模擬試験の得点と合格率
- (4) 直前模試・GPA・高校ランク別の合格率

4 「AO」「推薦」入試学生の学習等の状況と合格率

5 ゼミ別の国家試験合格率の比較



傾向分析から要因分析へ



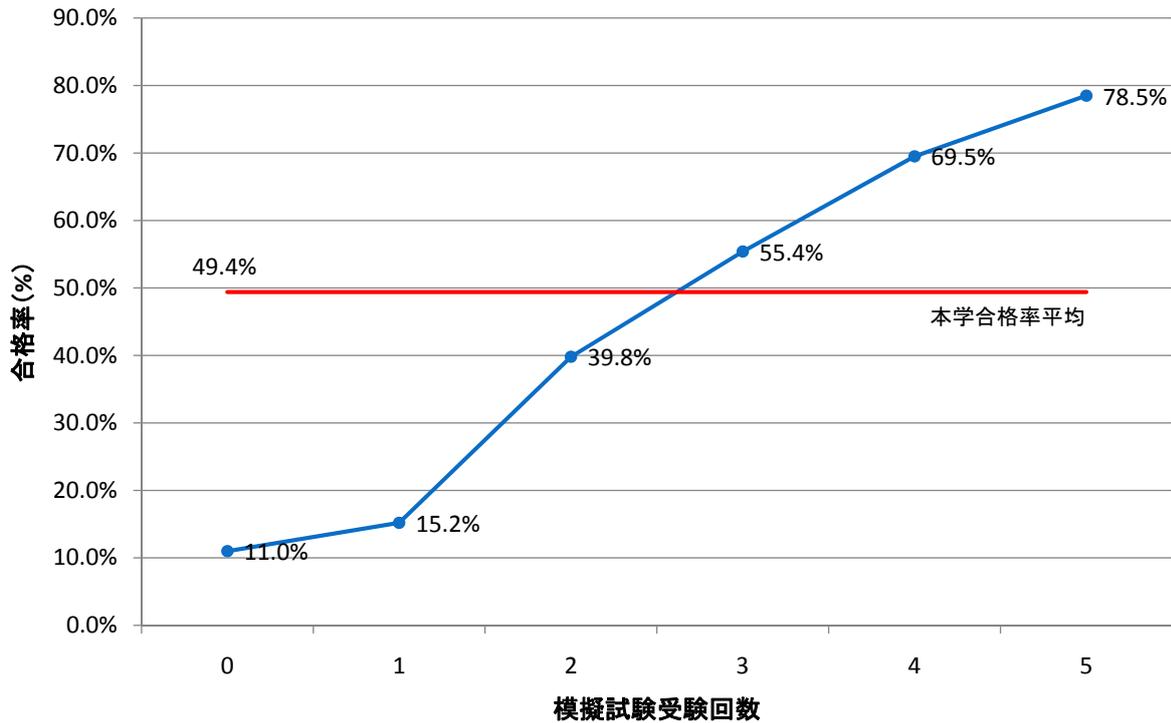
11

入試区分別社会福祉士合格率 (分析の例示①)

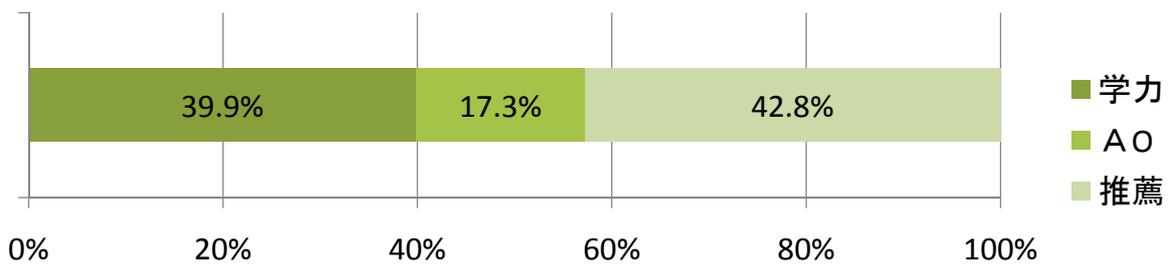
入試区分	合格率
学力系	60.8%
推薦系	41.9%
AO入試	32.8%
合計	49.4%

12

社会福祉士国家試験合格率と模擬試験受験回数 (分析の例示②)



入試形態別学生状況(概況) 【入学学生の4年間の変化】 入学学生の入試形態別割合



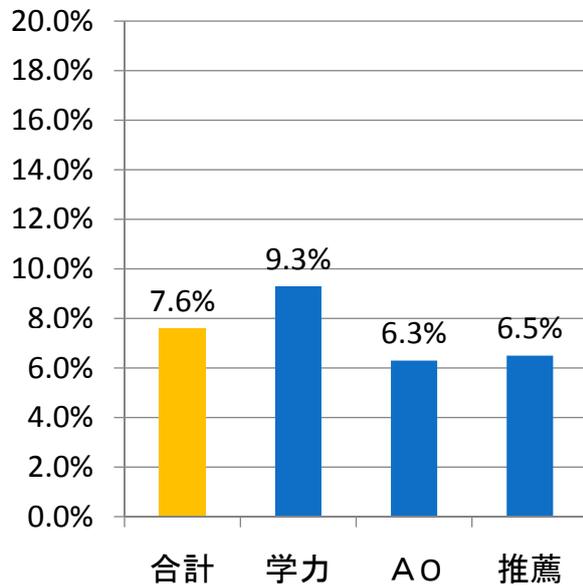
入学学生の4年間の状況



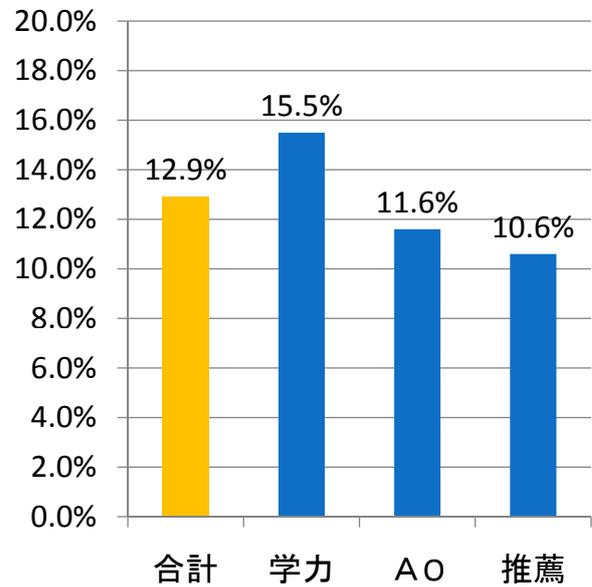
入試形態別学生状況(退学・留年)

【入学学生の4年間の変化】

退学・除籍状況



留年状況

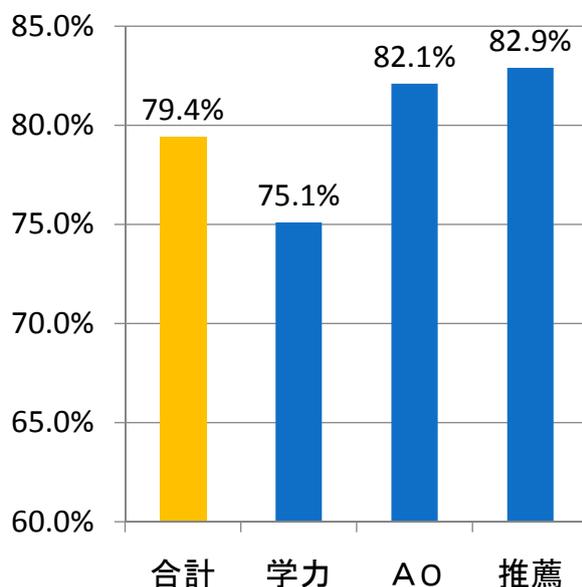


15

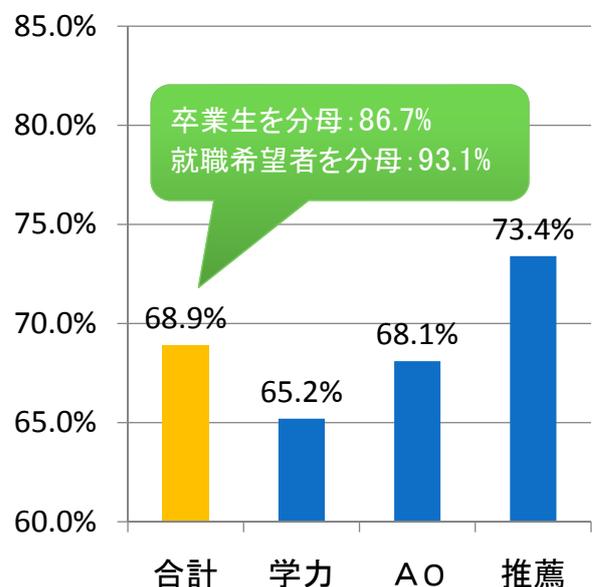
入試形態別学生状況(卒業・就職)

【入学学生の4年間の変化】

卒業状況

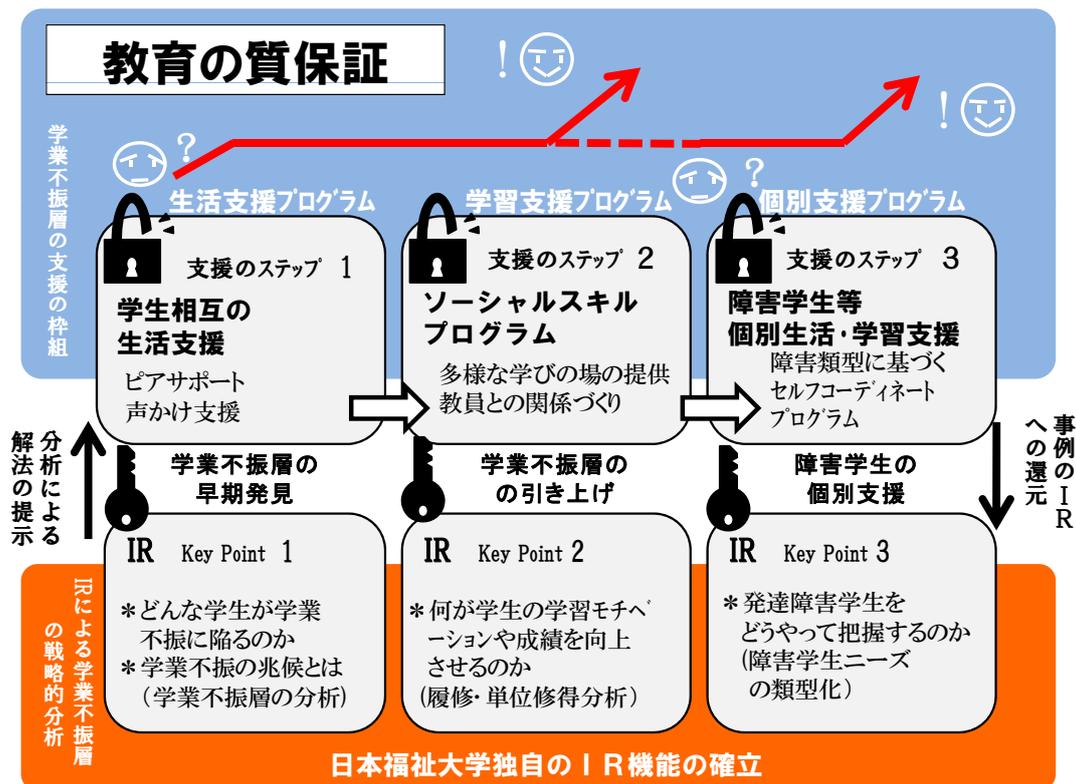


就職状況



16

GPでの取組み



17

学業不振学生への対応

- 学業不振学生とは？(定義)
- まずは状況を知る(現状把握)
- どの層をどこまで引き上げるか(目標設定)
- 早い時点で手をうてないか(早期発見)
- 効果的な対応は何か(プログラム実施)

18

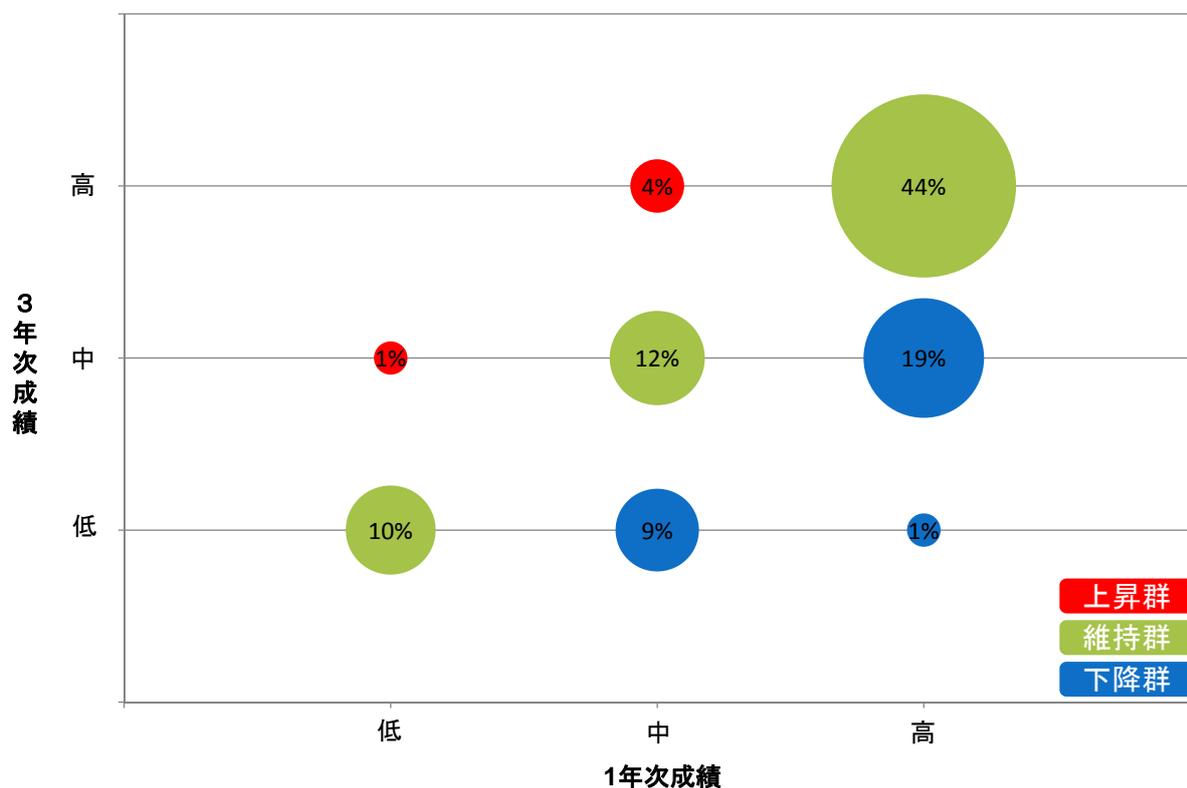
GPAの段階表示とコメント

段階表示	範囲	コメント(学期ごとに表示)
V	3.0~4.0 (4.5~5.0)	大変良好な学習状況です。
IV	2.5~2.9 (4.0~4.4)	良好な学習状況です。
III	2.0~2.4 (3.5~3.9)	もう少し積極的に学習しましょう。
II	1.5~1.9 (3.0~3.4)	履修科目についてしっかり学習しましょう。
I	~1.4 (2.0~2.9)	履修登録段階からの計画を含めて学習全体の見直しが必要です。学習相談を行ってください。

※範囲の上段は現行基準(履修単位算出)、下段の括弧内は旧基準(修得単位算出)

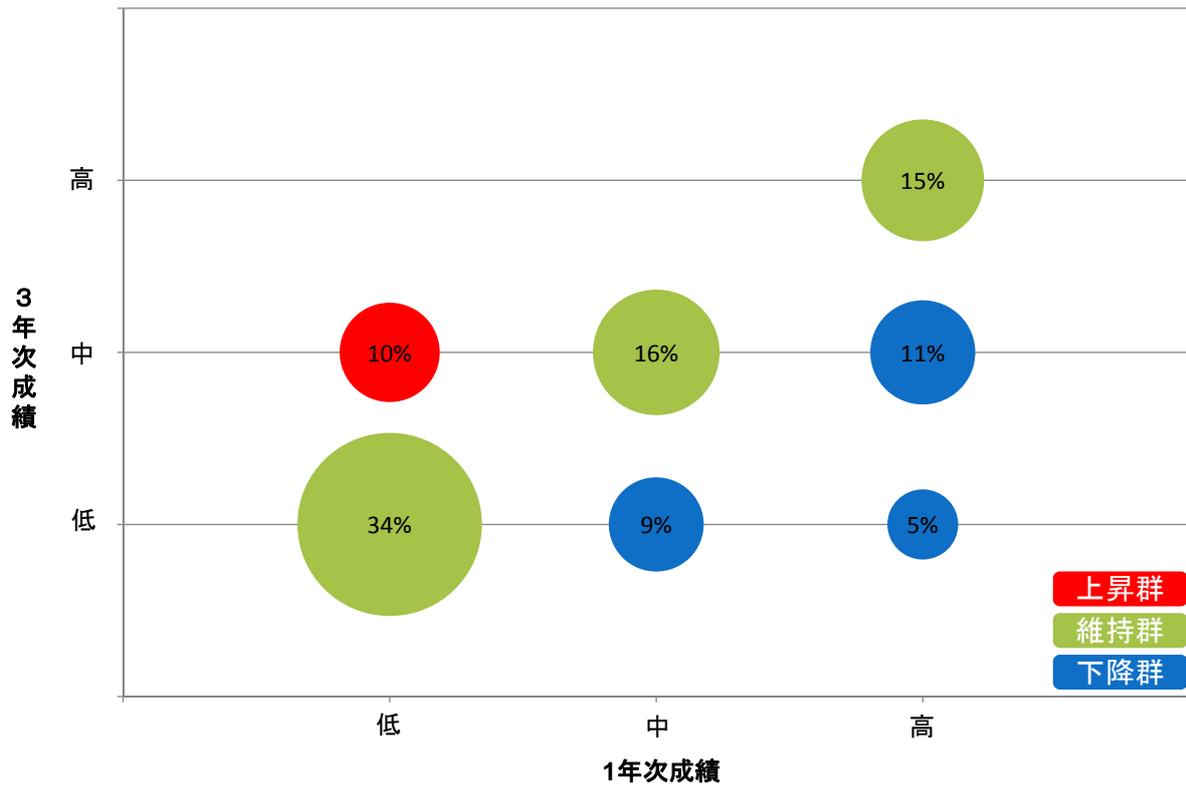
19

入学から卒業までの成績変化(A学部)



20

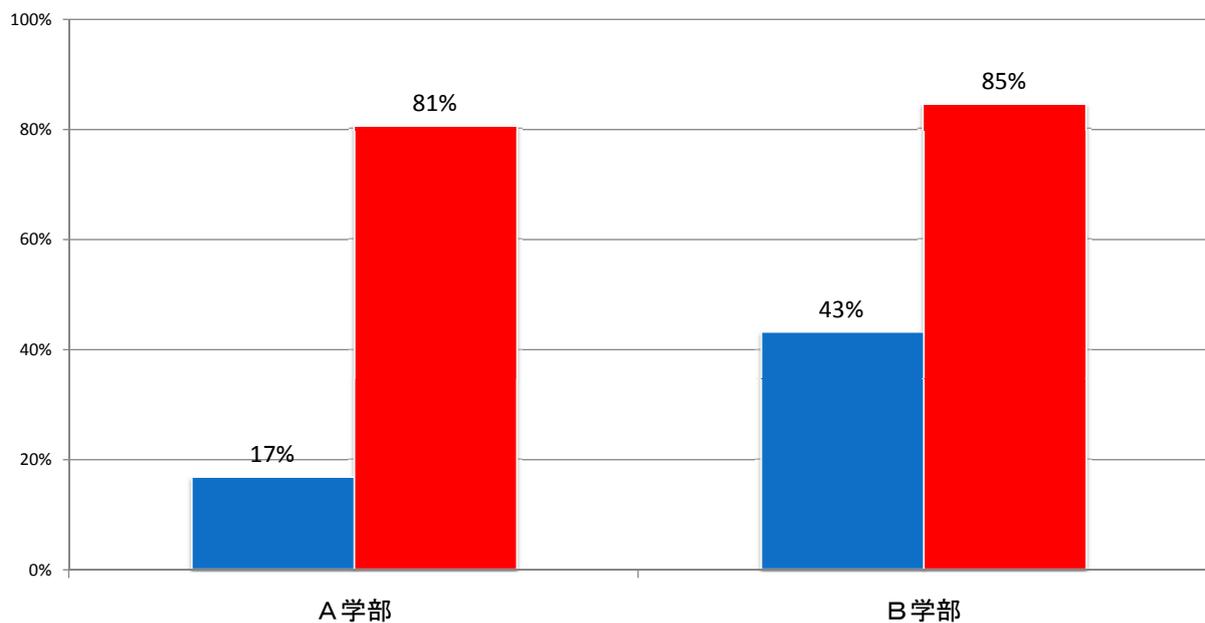
入学から卒業までの成績変化（B学部）



21

低GPA学生比率とゼミ所属の関係

■ ゼミ所属学生 ■ ゼミ未所属学生



※3年次終了時点の累積GPA

22

状況把握から分かること

約7割の学生は1
年次の成績を卒
業まで維持



初年次教育の
重要性

ゼミ未所属学生
の低GPA割合は8
割を超える



ゼミ所属を前提と
した対応が必要

23

IR機能の組織化の特徴

1 「総合企画室」と「IR推進室」

- 役割の明確化によるIR推進(政策提案、データ収集・分析)

2 総合企画室における経営・教学の協働

- 構成員は教職同数、経営・教学各領域からの人選

3 政策課題への迅速な対応

- 「総合企画室」⇒「理事長・学長懇談会」

4 事務組織に配置された「IR推進室」

- データ収集が比較的容易、研究主体でない

24

IR機能の組織化と3つのねらい

1 担当課室の分析業務支援

- 分析時間の短縮
- 分析内容の高度化(傾向把握⇒要因分析)

2 合意形成型IRの構築

- 政策実行教職員の主体形成
- 教職員・学生との共通理解を得やすい分析手法

3 組織や教職員間の調整

- 教員の視点、職員の視点
- 現場の経験や思いを「見える化」

25

事務組織におけるIR推進

事務組織 に配置する 特徴

- 事務組織内の問題意識から組織化が比較的容易
- 日常業務データを収集・管理
- 個別事例ではない大学全体を見る集計的視点
- 効果的な調整機能(特に、教員間)
- 研究主体ではないIR推進
→「知見」がえられた、で終わらせない

IR推進室の 構成員

- 事務組織内への「研究員」配置(分析内容の高度化、教員との距離が近い職員)
- 教学・経営部局での経験を持つ職員
- 情報システムの経験を持つ職員

※分析スキル面で教員からの支援をえる

26

IR推進の課題

- IRの浸透と教育改善の推進
 - 信頼関係構築
 - 職員のIRスキル向上
- 過度な期待の是正
- 業務範囲の限定
- 業務バランス – 限られた人的資源の配分